

今後の指標の進捗管理方法について（県土整備プラン2025）

- ・県土整備プラン2025の取組成果をより反映しやすくするため、外的要因が大きい指標などを見直した。
- ・これまでの「取組指標」と「成果指標」の違いを明確にするため、「指標」と「管理項目」という構成に再編した。

指標	施策の効果(アウトカム)を、県民にわかりやすく説明するものとして設定
管理項目	施策の進捗状況(アウトプット)を、行政が把握するためのものとして設定

県土整備プラン2020の指標

- ✓ 取組指標29、成果指標15、計44の指標を設定
- ✓ 指標数が多く複雑であり、「取組指標」と「成果指標」の違いがわかりづらい

【見直し】
 A.継続…17
 B.統合…10
 C.完了…4
 D.他計画…13

県土整備プラン2025の指標

- ✓ 事業効果を示す10の「指標」と、取組状況を示す27の「管理項目」に再編
- ✓ 「方策」に関する指標・管理項目を新たに追加

番号	指標	R6時点評価	県土整備プラン2025の取扱い
政策1 災害レジリエンスNo.1の実現			
施策1 緊急水害アクション（3か年緊急レジリエンス戦略）			
1	令和元年東日本台風で越水・溢水が生じた河川の堤防嵩上げの整備率	▲ B.統合	管理項目1に統合して進捗を図る。
施策2 重点水害アクション（5か年重点レジリエンス戦略）			
2	甚大な被害が想定される利根川ほか5河川（5区間）の河川改修等の整備率	▲ B.統合	管理項目1に統合して進捗を図る。
3	危機管理型水位計の整備率（県内全対象河川・339河川）	○ C.完了	事業完了
4	河川監視カメラの整備率（県内全対象河川・339河川）	○ C.完了	事業完了
施策3 防災インフラの整備（中長期レジリエンス戦略）			
5	河川整備計画に基づく河川整備延長	○ A.継続	管理項目1で進捗管理を継続
6	土砂災害対策推進計画に基づく重点要対策箇所の整備率	▲ D.他計画	引き続き「土砂災害対策推進計画」で進捗を図る。
7	災害時にも機能する強靭な道路ネットワークの整備率	○ B.統合	管理項目17に統合して進捗を図る。
8	緊急輸送道路における落石等対策の整備率	○ A.継続	管理項目3で進捗管理を継続
9	水害リスクが軽減される人家戸数	○ A.継続	指標1で進捗管理を継続
10	水害リスクが軽減される産業団地数	▲ B.統合	管理項目1に統合して進捗を図る。
11	土砂災害リスクが軽減される人家戸数	○ D.他計画	引き続き「土砂災害対策推進計画」で進捗を図る。
12	土砂災害リスクが軽減される要配慮者利用施設数	▲ D.他計画	引き続き「土砂災害対策推進計画」で進捗を図る。
13	土砂災害リスクが軽減される避難所数	▲ D.他計画	引き続き「土砂災害対策推進計画」で進捗を図る。
14	防災・物流拠点集積エリア間の道路ネットワークの強靭化率	○ B.統合	管理項目17に統合して進捗を図る。
施策4 避難のサポート（中長期レジリエンス戦略）			
15	水害に係る要配慮者利用施設の避難確保計画策定の整備率	○ C.完了	事業完了
16	水害に係るマイ・タイムライン作成支援の進捗率	○ A.継続	管理項目6で進捗管理を継続
17	土砂災害警戒区域等の見直しの進捗率	○ D.他計画	引き続き「土砂災害対策推進計画」で進捗を図る。
18	土砂災害に係る要配慮者利用施設の避難確保計画策定の整備率	○ C.完了	事業完了
19	水害により人の被害が発生した要配慮者利用施設数	○ B.統合	指標3に統合して進捗を図る。
20	土砂災害による死者数	○ A.継続	指標3で進捗管理を継続
政策2 持続可能で効率的なメンテナンス			
施策1 予防保全に基づく長寿命化			
21	長寿命化計画に基づく横断歩道橋補修の進捗率	○ B.統合	管理項目8に統合して進捗を図る。
22	長寿命化計画に基づくトンネル補修の進捗率	○ B.統合	管理項目8に統合して進捗を図る。

政策・施策	指標	新規/継続	進捗状況の管理項目	新規/継続
政策1 災害レジリエンスNo.1の実現				
施策1 オール群馬による水害対策の加速化・高度化（流域治水の推進）	指標1 水害リスクが軽減される家戸数	継続	管理項目1 河川整備計画に基づく河川整備延長	継続
施策2 大規模災害を想定した事前防災の推進	指標2 孤立集落の発生リスクが軽減される路線数	新規	管理項目2 防災指針の策定市町村数	新規
施策3 「逃げ遅れゼロ」に向けた避難のサポート	指標3 水害や土砂災害からの「逃げ遅れ」による死者数	継続	管理項目3 孤立集落が発生するおそれのある路線ににおける落石等対策の実施箇所数	継続
政策2 持続可能で効率的なメンテナンス				
施策1 予防保全に基づく長寿命化	指標4 道路橋における老朽化に伴う劣化に起因した全面通行止め件数	新規	管理項目4 砂防施設の健全率	継続
施策2 効率的な維持管理	(指標設定なし)		管理項目5 土砂災害対策の実施箇所数	新規
施策3 新技術を活用したインフラメンテナンス	(指標設定なし)		管理項目6 マイ・タイムラインの作成支援の進捗率	継続
政策3 未来につながる魅力的なまちづくり				
施策1 工ニア価値を創造する未来投資	指標5 リーディングプロジェクトエリアの地価	新規	管理項目7 リーディングプロジェクトで実施する県支援策の完了件数	新規
施策2 持続可能で暮らしやすいまちづくり	指標6 市街化区域内人口密度	継続	管理項目8 道路施設の健全率	継続
施策3 地域の暮らしや経済活動を支えるインフラ整備	指標7 淀滞損失時間の削減量	新規	管理項目9 河川構造物の健全率	継続
施策4 誰もが安全に移動できる環境づくり	指標8 安全な通学環境の整備率	新規	管理項目10 土地区画整理完了率	継続
政策4 美しく良好な環境の保全				
施策1 豊かで美しい自然環境の保全・再生	(指標設定なし)		管理項目11 高速交通網を補完する広域道路ネットワークの整備率	継続
施策2 健全な水循環の維持・回復	(指標設定なし)		管理項目12 地域住民参加による維持管理プロジェクトへの参加団体数	新規
施策3 地球温暖化対策の推進	指標9 県内温室効果ガス排出量	新規	管理項目13 官民連携による新技術の試行件数	新規
政策5 美しく良好な環境の保全				
方策1 社会資本の整備と維持管理の担い手の確保・育成			管理項目14 リーディングプロジェクトで実施する県支援策の完了件数	新規
方策1-1 建設産業の働き方改革			管理項目15 立地適正化計画策定市町村数	継続
方策1-2 建設現場の生産性向上			管理項目16 土地区画整理完了率	継続
方策1-3 建設産業の魅力の発信			管理項目17 高速交通網を補完する広域道路ネットワークの整備率	継続
方策2-1 災害時に迅速かつ機動的に対応可能な建設業者数			管理項目18 主要渋滞箇所の対策率	継続
方策2-2 ICT活用工事（発注者指定型）の実施率			管理項目19 通学路の歩道整備延長	継続
方策2-3 建設産業の働き方改革			管理項目20 中高生の通学経路における自転車通行空間の整備延長	継続
方策2-4 建設現場の生産性向上			管理項目21 自転車用ヘルメットの着用率	継続
方策2-5 建設産業の魅力の発信			管理項目22 多自然川づくりに取り組んだ河川整備延長	新規
方策2-6 汚水処理人口普及率			管理項目23 汚水処理人口普及率	継続
方策2-7 土地区画整理完了率			管理項目24 県営ダム及び砂防堰堤を活用した水力発電の実施件数	新規
方策2-8 下水道汚泥のリサイクル率			管理項目25 下水道汚泥のリサイクル率	新規
方策2-9 災害時に迅速かつ機動的に対応可能な建設業者数			管理項目26 週休2日制現場の達成率	新規
方策2-10 ICT活用工事（発注者指定型）の実施率			管理項目27 ICT活用工事（発注者指定型）の実施率	新規

指標の進捗状況（県土整備プラン2025）

- 新たな指標についても、これまでと同様に3つの区分（達成、前進、遅延）で評価を行う。
- 今回、令和6年度末はプラン策定時の初期値となるため、計画値に対する進捗を10指標中10指標で達成と例示している。
- 来年度の委員会では、令和7年度末時点の実績値に基づき、指標の評価及び管理項目の進捗をそれぞれお示しする。

1. 指標全体の進捗状況

評価の区分	指標数	割合
◎ 達成（計画値を達成し、順調に進捗）	10	100%
○ 前進（計画値を概ね達成）	0	0%
▲ 遅延（計画値に対して10%以上の遅れ）	0	0%
合計	10	100%

2. 各指標の進捗状況

政策・施策	指標	計画値	実績値	評価	進捗状況の管理項目	計画値	実績値
【政策1】災害レジリエンスNo.1の実現							
【施策1】オール群馬による水害対策の加速化・高度化（流域治水の推進）	指標1 水害リスクが軽減される家屋戸数	29,393戸（R6末）	29,393戸（R6末）	◎	河川整備計画に基づく河川整備延長	50.4km（R6末）	50.4km（R6末）
					防災指針の策定市町村数	13市町村（R6末）	13市町村（R6末）
【施策2】大規模災害を想定した事前防災の推進	指標2 孤立集落の発生リスクが軽減される路線数	14路線（R6末）	14路線（R6末）	◎	孤立集落が発生するおそれのある路線における落石等対策の実施箇所数	54箇所（R6末）	54箇所（R6末）
					孤立集落が発生するおそれのある路線における土砂災害対策の実施箇所数	30箇所（R6末）	30箇所（R6末）
【施策3】「逃げ遅れゼロ」に向けた避難のサポート	指標3 水害や土砂災害からの「逃げ遅れ」による死者数	0人（R6末）	0人（R6末）	◎	孤立集落が発生するおそれのある路線における耐震補強済の橋梁数	5橋（R6末）	5橋（R6末）
					マイ・タイムラインの作成支援の進捗率	50%（R6末）	50%（R6末）
【政策2】持続可能で効率的なメンテナンス					主体的に避難する力を育むための防災教育を支援した市町村数	5市町村（R6末）	5市町村（R6末）
【施策1】予防保全に基づく長寿命化	指標4 道路橋における老朽化に伴う劣化に起因した全面通行止め件数	0件（R5末）	0件（R5末）	◎	道路施設の健全率	95%（R6末）	95%（R6末）
					舗装の健全率	96%（R6末）	96%（R6末）
【施策2】効率的な維持管理					河川構造物の健全率	99%（R6末）	99%（R6末）
【施策3】新技術を活用したインフラメンテナンス					砂防施設の健全率	92%（R6末）	92%（R6末）
【政策3】未来につながる魅力的なまちづくり					地域住民参加による維持管理プロジェクトへの参加団体数	1,062団体（R6末）	1,062団体（R6末）
【施策1】エリア価値を創造する未来投資	指標5 リーディングプロジェクトエリアの地価	84千円/m ² （R5末）	84千円/m ² （R5末）	◎	官民連携による新技術の試行件数	2件（R6末）	2件（R6末）
【施策2】持続可能で暮らしやすいまちづくり	指標6 市街化区域内人口密度	67.3人/ha（R5末）	67.3人/ha（R5末）	◎			
【施策3】地域の暮らしや経済活動を支えるインフラ整備	指標7 渋滞損失時間の削減量	年間0人時間（R6末）	年間0人時間（R6末）	◎			
【施策4】誰もが安全に移動できる環境づくり	指標8 安全な通学環境の整備率	77%（R6末）	77%（R6末）	◎			
【政策4】美しく良好な環境の保全							
【施策1】豊かで美しい自然環境の保全・再生							
【施策2】健全な水循環の維持・回復							
【施策3】地球温暖化対策の推進	指標9 県内温室効果ガス排出量	14,268千トン-Co ₂ （R3末）	14,268千トン-Co ₂ （R3末）	◎			
【方策1】社会資本の整備と維持管理の担い手の確保・育成							
【方策1-1】建設産業の働き方改革							
【方策1-2】建設現場の生産性向上	指標10 災害時に迅速かつ機動的に対応可能な建設業者数	287業者（R6末）	287業者（R6末）	◎	多自然川づくりに取り組んだ河川整備延長	50.4km（R6末）	50.4km（R6末）
【方策1-3】建設産業の魅力の発信					汚水処理人口普及率	85%（R5末）	85%（R5末）
					県営ダム及び砂防堰堤を活用した水力発電の実施件数	2件（R6末）	2件（R6末）
					下水道汚泥のリサイクル率	100%（R5末）	100%（R5末）
					週休2日制現場の達成率	84%（R6末）	84%（R6末）
					ICT活用工事（発注者指定型）の実施率	95%（R6末）	95%（R6末）

政策1 災害レジリエンスNo.1の実現

気候変動の影響等により、水害等の気象災害が頻発化・激甚化する中で、気象災害の新たな脅威にしっかりと対応できる「災害レジリエンスNo.1」の実現に向け、市町村、民間企業や県民等との連携・共創によるオール群馬での防災・減災対策を加速させるとともに、能登半島地震を踏まえた孤立集落対策などの事前防災を推進します。

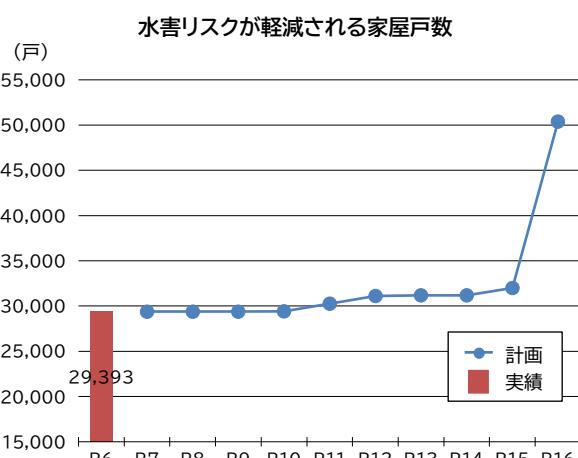
施策1 オール群馬による水害対策の加速化・高度化(流域治水の推進)

河川管理者が主体となって行う水害対策に加え、国・県・市町村・住民や企業等の流域全体のあらゆる関係者が協働し、まちづくりや住まい方など、土地利用と一体となった水害対策を推進します。

－ 指標(施策の効果)－

指標1 水害リスクが軽減される家屋戸数

指標の説明 河川整備計画に基づく河川整備により、水害リスクが軽減される家屋戸数の累計値



● 指標の進捗状況を踏まえた今後の施策展開方針

	R6	R7	R8	R9	R10	R11
計画		29,393戸	29,393戸	29,393戸	29,409戸	30,248戸
実績	29,393戸					
	R12	R13	R14	R15	R16	
計画	31,097戸	31,166戸	31,166戸	31,979戸	50,386戸	
実績						

－ 管理項目(施策の進捗状況)－

河川整備計画に基づく河川整備延長

管理項目の説明 河川整備計画に基づく河川整備延長の累計値

指標との関係性 河川整備の進捗に伴い、浸水想定区域が縮小することで、水害リスクが軽減される家屋戸数の増加として事業効果が現れる項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

防災指針の策定市町村数

管理項目の説明 これまでに防災指針を策定した市町村の累計値

指標との関係性 指標の進捗には直結しないが、土地利用の観点から水害リスクの低い区域へ居住・都市機能を誘導し、水害を受けるおそれのある家屋戸数の増加を抑制することで、間接的な効果を発揮する項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

施策2 大規模災害を想定した事前防災の推進

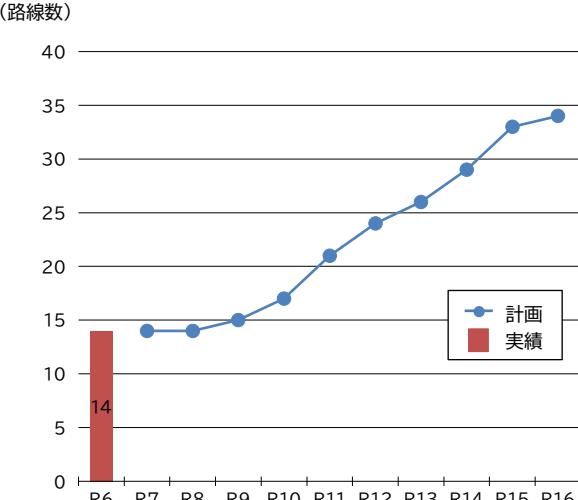
落石や土砂災害等により、道路が寸断することがないように、落石対策や砂防施設の整備を推進し、孤立集落の発生を抑制します。

－ 指標(施策の効果)－

指標2 孤立集落の発生リスクが軽減される路線数

指標の説明 孤立集落の発生要因となる箇所における、落石等対策、土砂災害対策、耐震補強が完了し、孤立の発生リスクが軽減される路線数の累計値。ただし、迂回路のない行き止まりの県管理道路が対象。

孤立集落の発生リスクが軽減される路線数



● 指標の進捗状況を踏まえた今後の施策展開方針

	R6	R7	R8	R9	R10	R11
計画		14路線	14路線	15路線	17路線	21路線
実績	14路線					
	R12	R13	R14	R15	R16	
計画	24路線	26路線	29路線	33路線	34路線	
実績						

－ 管理項目(施策の進捗状況)－

孤立集落が発生するおそれのある路線における落石等対策の実施箇所数

管理項目の説明 孤立集落が発生するおそれのある路線を対象として、道路防災総点検に基づく要対策箇所のうち、対策が完了した箇所の累計値

指標との関係性 落石等対策に加えて、同一路線内の土砂災害対策及び耐震補強が完了することで、孤立集落の発生リスク軽減として事業効果が現れる項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

孤立集落が発生するおそれのある路線における土砂災害対策の実施箇所数

管理項目の説明 孤立集落が発生するおそれのある路線を対象として、土砂災害対策推進計画に基づく要対策箇所のうち、対策が完了した箇所の累計値

指標との関係性 土砂災害対策に加えて、同一路線内の落石等対策及び耐震補強が完了することで、孤立集落の発生リスク軽減として事業効果が現れる項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

孤立集落が発生するおそれのある路線における耐震補強済の橋梁数

管理項目の説明 孤立集落が発生するおそれのある路線を対象として、耐震化が未着手である橋梁のうち、耐震化が完了した橋梁数

指標との関係性 耐震補強に加えて、同一路線内の落石等対策及び土砂災害対策が完了することで、孤立集落の発生リスク軽減として事業効果が現れる項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

施策3 「逃げ遅れゼロ」に向けた避難のサポート

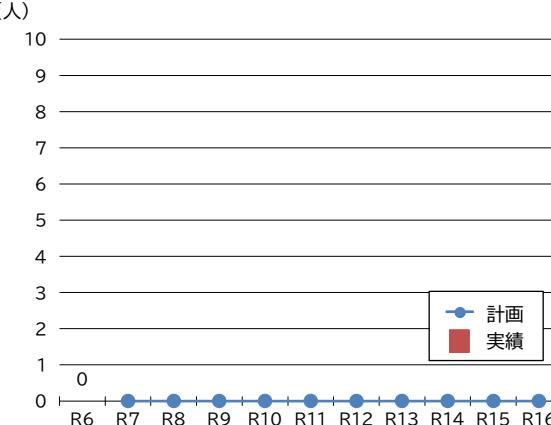
県民にわかりやすい防災情報を発信することで、異常気象時の主体的な避難行動を促進し、水害や土砂災害からの「逃げ遅れゼロ」を目指します。

– 指標(施策の効果) –

指標3 水害や土砂災害からの「逃げ遅れ」による死者数

指標の説明 各年度における水害・土砂災害を要因とする死者数。ただし、避難所などにおける災害関連死を除く。

水害や土砂災害からの「逃げ遅れ」による死者数 (人)



● 指標の進捗状況を踏まえた今後の施策展開方針



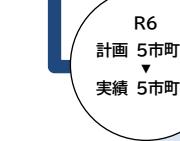
マイ・タイムラインの作成支援の進捗率

管理項目の説明 水害リスクのある全ての地区のうち、マイ・タイムライン作成支援を行った地区的割合

指標との関係性 マイ・タイムラインを作成しておくことで、異常気象時に住民が適切な避難行動を取れるようになり、水害や土砂災害からの「逃げ遅れゼロ」として事業効果が現れる項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方



主体的に避難する力を育むための防災教育を支援した市町村数

管理項目の説明 水害や土砂災害による「逃げ遅れゼロ」に向け、主体的な判断で適切な避難行動をとれる児童を育成するために支援を実施した市町村の累計値

指標との関係性 防災教育を通じて、主体的な判断で適切な避難行動をとれる児童を育成することで、水害や土砂災害からの「逃げ遅れゼロ」として事業効果が現れる項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方

政策2 持続可能で効率的なメンテナンス

厳しい財政状況かつ労務・資材単価の高騰の中でも、県民の安全・安心な生活を守るため、インフラメンテナンスに係るトータルコストの中長期的な縮減と平準化を図るとともに、官民連携による新技術の活用などにより、持続可能で効率的なメンテナンスを推進します。

施策1 予防保全に基づく長寿命化

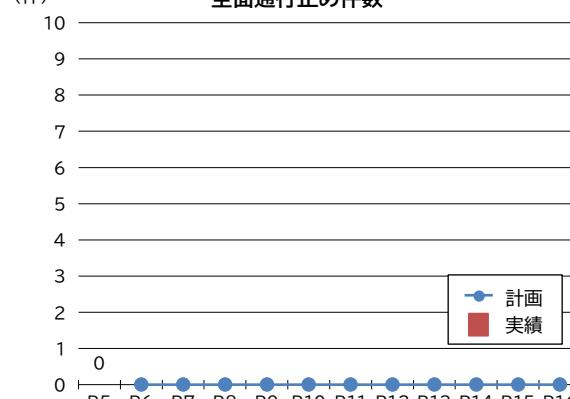
長寿命化計画に基づく予防保全型の計画的な維持管理・更新を推進し、トータルコストの縮減と平準化を図ります。

– 指標(施策の効果) –

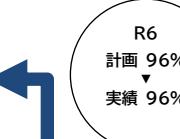
指標4 道路橋における老朽化に伴う劣化に起因した全面通行止め件数

指標の説明 老朽化に伴う劣化に起因した全面通行止めの件数。ただし、災害、交通事故等に起因する通行止めは含まない。

道路橋における老朽化に伴う劣化に起因した全面通行止め件数 (件)



● 指標の進捗状況を踏まえた今後の施策展開方針



– 管理項目(施策の進捗状況) –

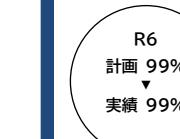
舗装の健全率

管理項目の説明 全舗装延長のうち、健全度区分がI判定(健全)とII判定(表層機能保持段階)の舗装延長の割合

指標との関係性 指標に掲げる道路橋以外に県土整備部が管理しているインフラについて、予防保全型の計画的な維持管理・更新を推進し、適切な管理水準を維持するという施策の目的を達成するために、進捗状況を測る必要がある項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方



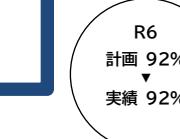
河川構造物の健全率

管理項目の説明 全管理河川延長のうち、措置段階(対策が必要な状態)以外の河川延長の割合

指標との関係性 指標に掲げる道路橋以外に県土整備部が管理しているインフラについて、予防保全型の計画的な維持管理・更新を推進し、適切な管理水準を維持するという施策の目的を達成するために、進捗状況を測る必要がある項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方



砂防施設の健全率

管理項目の説明 砂防堰堤、かけ崩れ防止施設、地すべり防止施設のうち、健全度がA判定(対策不要)とB判定(経過観察)の施設数の割合

指標との関係性 指標に掲げる道路橋以外に県土整備部が管理しているインフラについて、予防保全型の計画的な維持管理・更新を推進し、適切な管理水準を維持するという施策の目的を達成するために、進捗状況を測る必要がある項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方

施策2 効率的な維持管理

日常点検や除草、除雪等の維持管理において、ICT技術、新たな維持管理手法や民間活力を積極的に導入し、効率的な維持管理を行います。

– 指標(施策の効果) –

(指標設定なし)

– 管理項目(施策の進捗状況) –

R6
計画 1,062団体
実績 1,062団体

管理項目の説明

自治会除草及び花と緑のクリーン作戦の参加団体数の合計

指標との関係性

インフラの維持管理において民間活力を積極的に導入するという施策の目的を達成するために、進捗状況を測る必要がある項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方

施策3 新技術を活用したインフラメンテナンス

ICT、AIなどのデジタル技術を活用した点検、モニタリングやメンテナンスを推進するとともに、持続的なメンテナンス体制を構築するため、新技術導入促進の場を設けるなど、インフラメンテナンス産業の創出を支援します。

– 指標(施策の効果) –

(指標設定なし)

– 管理項目(施策の進捗状況) –

R6
計画 2件
実績 2件

管理項目の説明

「インフラメンテナンスの産業化」に向けた官民マッチングにおける新技術試行の発注件数

指標との関係性

持続的なメンテナンス体制を構築するため、インフラメンテナンスの新産業の創出につなげるという施策の目的を達成するために、進捗状況を測る必要がある項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方

政策3 未来につながる魅力的なまちづくり

人口減少と高齢化が同時に進行する局面においても、誰もが生活に必要な都市機能を持続的に享受できるよう、広域的な観点から市町村のまちづくりを支援しながら、暮らしを支え安全で快適に移動できる環境を整備し、群馬の強みを活かしたエリア価値を創造する未来投資を進めることで、誰もが地域に魅力を感じ、幸福を実感できるまちづくりを推進します。

施策1 エリア価値を創造する未来投資

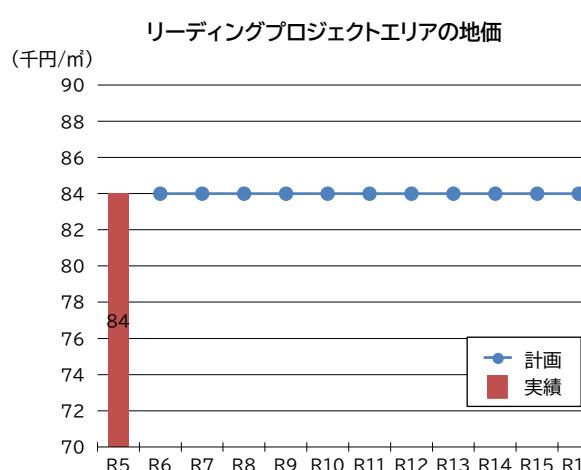
空間デザインやインフラ整備等を通じて、市町村が進める未来につながるまちづくり構想の実現を支援します。

– 指標(施策の効果) –

指標5 リーディングプロジェクトエリアの地価

指標の説明

リーディングプロジェクトのエリア内で県が支援策を実施する地域、及びその周辺の公示地価の平均値。ただし、計画期間当初から県支援策を実施している地域(前橋市・高崎市)を対象とする。



R6
計画 0件
実績 0件

– 管理項目(施策の進捗状況) –

リーディングプロジェクトエリアで実施する県支援策の完了件数

管理項目の説明

関係者の連携・共創で取り組むリーディングプロジェクトの中で実施する県の支援策が完了した事業件数

指標との関係性

リーディングプロジェクトの推進を通じて、市町村のまちづくり構想実現を支援することで、エリア価値(地域の魅力)が高まり、地価の下落を抑える事業効果が現れる項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方

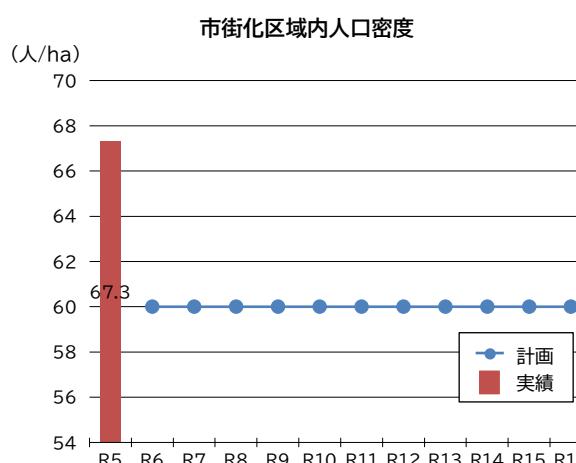
施策2 持続可能で暮らしやすいまちづくり

誰もが生活に必要なサービスを持続的に享受できるよう、土地利用計画、市街地整備、空き家対策等を通じて、まちのまとまりを維持します。

– 指標(施策の効果) –

指標6 市街化区域内人口密度

指標の説明 可住地面積あたりで集計した市街化区域内の人口密度



● 指標の進捗状況を踏まえた今後の施策展開方針

	R5	R6	R7	R8	R9	R10
計画		60人/ha	60人/ha	60人/ha	60人/ha	60人/ha
実績	67.3人/ha					
	R11	R12	R13	R14	R15	R16
計画	60人/ha	60人/ha	60人/ha	60人/ha	60人/ha	60人/ha
実績						

R6
計画 13市町村
実績 13市町村

管理項目の説明 これまでに立地適正化計画を策定した市町村の累計値

指標との関係性 立地適正化計画を策定する市町村が増えることで、市街地における居住と都市機能集積が促進され、市街化区域内人口密度を維持する効果が現れる項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

立地適正化計画策定市町村数

土地区画整理完了率

管理項目の説明 土地区画整理事業の計画面積に対する施工済(換地処分公告)面積の割合

指標との関係性 土地区画整理事業の施工面積が増えることで、快適な生活空間が整備され、市街化区域内人口密度を維持する効果が現れる項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

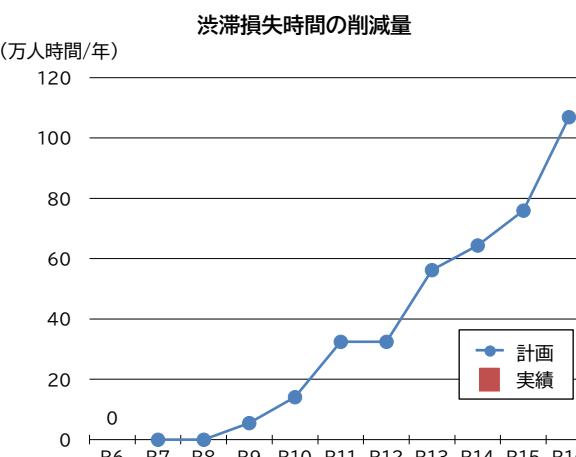
施策3 地域の暮らしや経済活動を支えるインフラ整備

物流・人流ネットワークや都市間連携ネットワークの構築、現道拡幅等の域内道路整備により、円滑な移動環境を整備します。

– 指標(施策の効果) –

指標7 渋滞損失時間の削減量

指標の説明 主要渋滞箇所の対策事業(バイパス整備や現道拡幅、交差点改良等)により削減される年間の渋滞損失時間



● 指標の進捗状況を踏まえた今後の施策展開方針

	R6	R7	R8	R9	R10	R11
計画		年間 0万人時間	年間 0万人時間	年間 5.5万人時間	年間 14.1万人時間	年間 32.5万人時間
実績	年間 0万人時間					
	R12	R13	R14	R15	R16	
計画	年間 32.5万人時間	年間 56.2万人時間	年間 64.4万人時間	年間 75.9万人時間	年間 106.9万人時間	
実績						

R6
計画 88%
実績 88%

管理項目の説明 広域道路交通計画の広域道路(基幹道路)に位置づけられている「高規格道路」及び「一般広域道路」のうち、整備が完了した延長の割合

指標との関係性 主要渋滞箇所の対策に寄与するバイパス整備が完了することで、円滑な移動環境が整備され、渋滞損失時間の削減量増加として事業効果が現れる項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

高速交通網を補完する広域道路ネットワークの整備率

主要渋滞箇所の対策率

管理項目の説明 「群馬県域移動性(モビリティ)・安全性向上検討委員会」(R5)で特定された主要渋滞箇所で県事業で対策する箇所(260箇所)のうち、対策事業が完了した箇所の割合

指標との関係性 主要渋滞箇所の対策事業が完了することで、円滑な移動環境が整備され、渋滞損失時間の削減量増加として事業効果が現れる項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

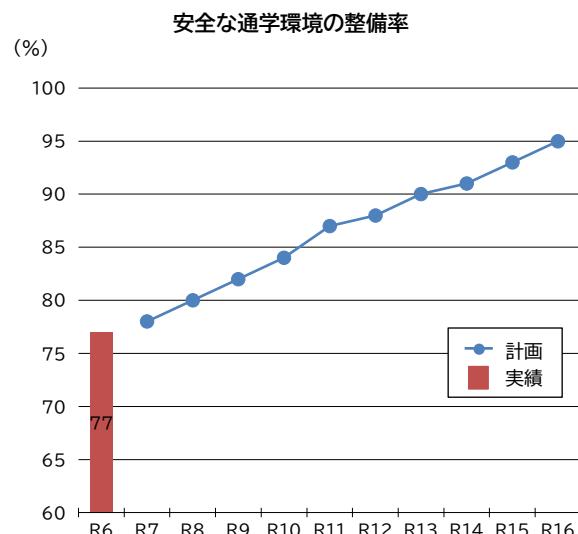
施策4 誰もが安全に移動できる環境づくり

通学路の歩道整備、中高生の通学経路等の自転車通行空間整備を優先的に進め、こどもたちの安全な通学環境を整備します。

– 指標(施策の効果) –

指標8 安全な通学環境の整備率

指標の説明 法指定通学路の歩道整備と中高生の通学経路及び高校半径3km圏内の自転車通行空間整備が完了した割合



R6
計画 617.2km
実績 617.2km

管理項目の説明
指標との関係性

– 管理項目(施策の進捗状況) –

通学路の歩道整備延長

法指定通学路延長のうち、歩道もしくはグリーンベルト等簡易整備により対策済みの延長

通学路の歩道整備に加えて、通学経路等の自転車通行空間整備が完了することで、安全な通学環境の整備率増加として事業効果が現れる項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

R6
計画 172.4km
実績 172.4km

管理項目の説明
指標との関係性

中高生の通学経路における自転車通行空間の整備延長

自転車ネットワーク路線における中高生の学校指定通学経路及び高校半径3km圏内延長のうち、自転車通行空間の整備済み延長
(高校半径3km圏内は自動車交通量1万台/12h以上かつ自転車事故が多い区間)

通学経路等の自転車通行空間整備に加えて、通学路の歩道整備が完了することで、安全な通学環境の整備率増加として事業効果が現れる項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

R6
計画 40%
実績 40%

管理項目の説明
指標との関係性

自転車用ヘルメットの着用率

警察庁が発表している自転車用ヘルメット着用率

中高生が安心して通学できる環境をつくるという施策の目的を達成するために、指標以外の観点から進捗状況を測る必要がある項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

政策4 美しく良好な環境の保全

次世代に良好な環境を引き継ぐため、「自然環境の保全」や「健全な水循環の維持・回復」を推進するとともに、賢い成長と持続可能な社会の両立を目指し、カーボンニュートラルの実現につながる地球温暖化対策を推進します。

施策1 豊かで美しい自然環境の保全・再生

生物の生息環境の保全や再生に配慮した多自然川づくりを行うほか、地域住民等と協力し、自然再生に向けた取組を進めます。

– 指標(施策の効果) –

(指標設定なし)

R6
計画 1,062団体
実績 1,062団体

管理項目の説明
指標との関係性

– 管理項目(施策の進捗状況) –

多自然川づくりに取り組んだ河川整備延長

多自然川づくりに取り組んだ河川整備延長の累計値

生物の生息環境の保全や再生に配慮した多自然川づくりを行うという施策の目的を達成するために、進捗状況を測る必要がある項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

施策2 健全な水循環の維持・回復

下水道や農業集落排水による整備では非効率となった区域を合併処理浄化槽による整備区域に変更することで、効率的・効果的な汚水処理施設の整備を推進します。

– 指標(施策の効果) –

(指標設定なし)

R6
計画 2件
実績 2件

管理項目の説明
指標との関係性

– 管理項目(施策の進捗状況) –

汚水処理人口普及率

汚水処理施設で生活排水の処理が可能な県民の県人口に対する割合

効率的・効果的な汚水処理施設の整備を推進し、健全な水循環を形成するという施策の目的を達成するために、進捗状況を測る必要がある項目

- 現状及び課題
- 今後の事業の進め方

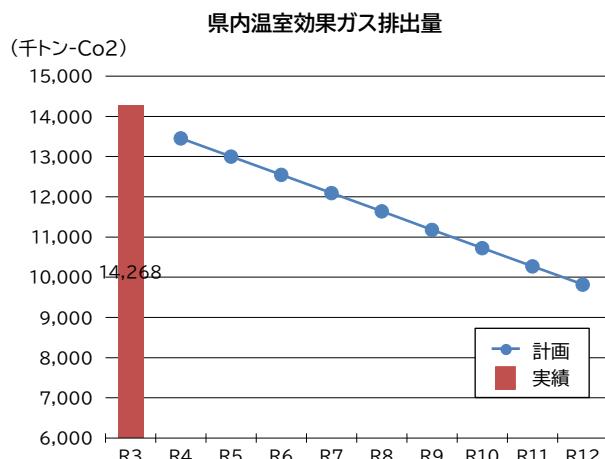
施策3 地球温暖化対策の推進

環境負荷の少ない資機材や木材の利用、水力発電をはじめとする再生可能エネルギーによる発電を導入します。

– 指標(施策の効果) –

指標9 県内温室効果ガス排出量

指標の説明 群馬県地球温暖化対策実行計画2021-2030における地球温暖化対策推進の数値目標



	R3	R4	R5	R6	R7	R8
計画		13,454 千トン-Co ₂	13,000 千トン-Co ₂	12,546 千トン-Co ₂	12,092 千トン-Co ₂	11,638 千トン-Co ₂
実績	14,268 千トン-Co ₂					
	R9	R10	R11	R12		
計画	11,184 千トン-Co ₂	10,730 千トン-Co ₂	10,276 千トン-Co ₂	9,823 千トン-Co ₂		
実績						

R6
計画 2件
実績 2件

管理項目の説明

指標との関係性 インフラを有効活用した再生可能エネルギーによる発電を導入することで、温室効果ガス排出量の削減として事業効果が現れる項目

– 管理項目(施策の進捗状況) –

県営ダム及び砂防堰堤を活用した水力発電の実施件数

管理項目の説明 県土整備部で所管する県営ダム、砂防堰堤を活用した水力発電の件数

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方

R5
計画 100%
実績 100%

管理項目の説明

指標との関係性 県で管理する流域下水道施設から排出される下水道汚泥の発生重量に対してリサイクルされた割合

下水道汚泥のリサイクル率

下水道で排出される汚泥のリサイクルを通じて、資源の効率的な利用と循環を目指すという施策の目的を達成するために、進捗状況を測る必要がある項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方

方策1 社会資本の整備と維持管理の担い手の確保・育成

社会資本の整備と維持管理の担い手であるとともに、地域の安全・安心の守り手として欠くことができない建設産業の健全な発展に向け、働き方改革や現場の生産性の向上、さらには魅力の発信に取り組み、担い手の安定的かつ持続的な確保・育成を支援します。

方策1-1 建設産業の働き方改革

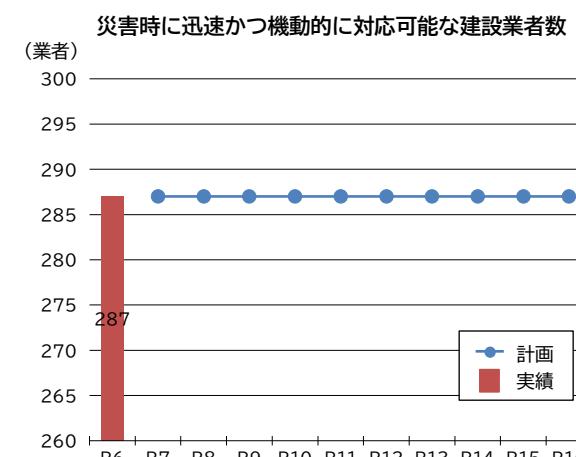
方策1-2 建設現場の生産性向上

方策1-3 建設産業の魅力の発信

– 指標(施策の効果) –

指標10 災害時に迅速かつ機動的に対応可能な建設業者数

指標の説明 災害応急対策業務に関する細目協定を締結している建設業者数



	R6	R7	R8	R9	R10	R11
計画		287業者	287業者	287業者	287業者	287業者
実績	287業者					
	R12	R13	R14	R15	R16	
計画	287業者	287業者	287業者	287業者	287業者	
実績						

R6
計画 84%
実績 84%

管理項目の説明

指標との関係性 建設現場における週休2日制現場対象工事案件について、週休2日制現場を達成した割合

週休2日制現場の達成率

指標との関係性 建設現場における週休2日制現場の達成率向上を通じて、建設産業の働き方改革が進むことで、担い手の安定的かつ持続的な確保につながり、災害時に対応可能な建設業者数の維持として事業効果が現れる項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方

R6
計画 95%
実績 95%

管理項目の説明

指標との関係性 建設現場におけるICT活用工事(発注者指定型)の対象工事案件について、実施した工事の割合

ICT活用工事(発注者指定型)の実施率

指標との関係性 建設現場におけるICT活用工事の導入が進み、建設現場の生産性が向上することで、担い手の安定的かつ持続的な確保につながり、災害時に対応可能な建設業者数の維持として事業効果が現れる項目

● 現状及び課題

● 今後の事業の進め方